



【第1回】 道の駅の駅長決定

平成30年春に開業予定の「(仮称)道の駅よねざわ」。オープンまで約1年の現在、建物の建設工事が進んでいきます。このコーナーでは、道の駅の最新情報を皆さんにお届けします。第1回は駅長決定のニュースです。



坂川 好則

[Profile]

北海道出身。米沢、山形のびゅうプラザ所長を歴任。平成19年から3年間、米沢駅長を務め、その後ホテルメトロポリタン山形副総支配人、山形県観光物産協会観光部長を経て現職。花沢町在住。

<農産物等直売所説明会>

- 日時・会場 / 5月17日(水) 19時～：飯豊町町民総合センターあ～す、5月23日(火) 19時～：高島町中央公民館
- ※3月の説明会と同内容です。
- 対象 / 出荷希望の生産者
- 申込・問合せ / 農林課農政担当 ☎ 22-5111

元JR米沢駅長の坂川好則氏(64歳)が道の駅の駅長に決定し、4月1日付けで道の駅の運営を行う予定の(株)アクセスよねざわに入社しました。坂川氏は「やまがた花回廊キャンペーン」の立ち上げにも尽力し、置賜の観光業やサービ

ス業に精通する人です。道の駅の駅長決定に当たり、「縁があるこの地で恩返しができる良い機会。自然豊かな米沢、置賜の魅力を最大限に活かし、県内外の人たちに楽しんでいただける魅力ある施設にしたい。来訪者にもた山形を訪れたいと思ってもらえるよう、何よりもおもてなしの心を大切に取り組みたい」と意気込みを語りました。



Tosuke Hirata
平田東助 (1849 - 1925)



エピソード1 岩倉使節団に随行し、 ドイツに留学

平田東助は、嘉永2年(1849)、米沢藩医伊東昇迪しょうてきの次男として、信夫町に生まれました。伊東家は、長崎留学でシーボルトに学んだ蘭学医、甥には建築学者の伊東忠太がいます。東助は8歳で藩医平田亮伯りょうはくの養子となり、平田姓を名乗ります。藩校興讓館で学んだ後、江戸へ遊学した東助は、明治4年には岩倉使節団に随行、ドイツへ留学します。ドイツでは、ベルリン大学などで国

法学・財政学・政治学・国際公法などを研究してドクトルIIフィロソフィの称号を得ました。

エピソード2 産業組合を創設

明治9年に帰国すると、明治政府の官僚として法制度の整備にあたり、とりわけドイツの制度を取り入れた信用組合法の立案に尽力しました。この法案は不成立に終わったものの、後に産業組合法として結実、数多くの組合が結成されるとともに、農民の経済的な自立と自主経営の組織化

を促し、今日の農業協同組合(JA)の礎となりました。

エピソード3 山形県初の大臣に

明治34年、桂太郎内閣の農商務大臣として初入閣し、山形県出身者で初めての大臣となりました。以後、同41年の第2次桂内閣で内務大臣、大正11年には天皇を補佐する内大臣となり、同14年の亡くなる直前まで務めました。この間、首相就任を要請されたこともありましたが、健康上の理由から固辞しています。

JAの礎を築いた平田東助。東助の巨大なブロンズ像が東京都町田市のJA全国教育センターにあり、昨年末に本市に寄贈されることになり、今後移設予定です。このコーナーでは今後も、明治く大正期に活躍した本市にゆかりのある人物を紹介していきます。お楽しみください。